

燃ゆる感動に向けて

新春 対談



いよいよ今年、かごしま国体・大会が開催されます。同国体・大会での活躍が期待されるお二人と、下鶴市長が対談しました。

左から 鶴田さん、下鶴市長、小野さん▶



2023 競技との出会い・続けられた原動力

市長 とちぎ国体・大会でのお二人の素晴らしいご活躍、おめでとうございます。今年地元開催に向けて、大きな弾みになりましたね。

まずは、お二人の競技生活のスタートから伺いたいと思います。鶴田さんが陸上競技を始めたきっかけは何ですか。

鶴田さん 陸上競技を始めたのは小学5年生の時ですが、特にこれといった理由があるわけではなく、いつの間にかクラブチームに入っただけで、陸上を始めていたという感じです。コーチたちにも恵まれて、中学時代そのままクラブチームで陸上を続けました。

市長 そこからどんな気持ちで中学・高校と陸上を続けられたのですか。

鶴田さん 中学・高校時代は、ライバルに勝つより、速くなりたい、タイムを縮めたい気持ちが強かったです。大学では、100mを11秒台で走るという目標に向け、一心に頑張りました。

市長 記録が伸びるときもあれば伸びないときもあると思いますが、心掛けてきたことなどがありますか。

鶴田さん 大学時代の2、3年は、なかなか11秒台が出せず、自己ベストも更新できませんでした。やはりその時期はきつかったです。鹿兒島を離れて関東の大学に来たからは、絶対に11秒台を出したいという強い思いがあったからこそ、どうにか乗り越えられたのかなと思っています。



なかなか練習に集中できない時期もありましたが、その時は遠い先を見るのではなく、その日の練習、その日の1本を、どう走るかというのを心掛けていました。

市長 スランプが2、3年続く中でやる気を保つというのは、本当にすごいことだと思います。小野さんはどんなきっかけで水泳競技を始められたんですか。

小野さん きっかけは、右手足のリハビリ代わりとして始めたことです。双子の兄が水泳をしていて、その影響もあって自分も速くなりたいと思って続けてきました。

市長 お兄さんの存在が大きかったですね。二人で同じことに取り組むと、やはり「勝ちたい」という気持ちにもなると思うのですが、実際どうでしたか。

小野さん 断然、兄の方が速くて。悔しい気持ちもありつつ、兄は憧れでもありました。

市長 その中でも、今に至るまで一生懸命続けられた原動力は何でしょうか。

小野さん 兄を含めた家族や周りの人にさまざまな形でサポートしてもらい、続けてこられました。

市長 日々の練習での一番の心の支えは何ですか。これがあから頑張ろうとか。

小野さん やはりきついつきに声を掛けてくれる兄の存在が一番です。そのおかげで、結果が出せたと思っています。

市長 本当にいい兄弟関係ですね。現在、小野さんは高校生ですので、学業と競技の両立も大変かと思いますがどうですか。

小野さん 授業が終わったら部活に行っていて、部活が終わったらさらにクラブチームに行っていて、その両立はきつかったです。それがとちぎ大会での優勝につながったと思います。



市長 厳しい練習を継続すること自体、なかなかできないことだと思います。お二人とも心の支えやモチベーションをしっかりとお持ちなのがよく分かりました。それが競技を続ける上での大きな原動力になっているんですね。

2023 つながり・感動を生むスポーツ

市長 本市はスポーツを生かしたまちづくりに取り組んでいます。お二人にとって競技も含め、スポーツの魅力とは何だと思えますか。

鶴田さん スポーツを通して出会った人たちが支えになり、私の今があります。スポーツを共通の話題にして盛り上げられるのも魅力ですが、やはり、体を動かすこと自体が楽しく、幸せなことだと思います。

市長 スポーツは共通のつながり・話題を作ってくれる、またとないテーマですよ。

小野さん 僕は、そのスポーツを詳しく知らない人でも楽しめるところがすごいと思います。最近あったサッカーW杯ですが、たった一つの試合をきっかけに大きく世界が変わります。

市長 確かに、たった一つの試合やレースが多くなるの心を揺さぶる、そういうものってなかなかないですよ。懸命に競技に向き合うアスリートの皆さんの姿を通じて、多くの人に感動を与えられるのはスポーツならではの大きな魅力だと思います。

